

巻頭フォトリポート
八日市町並

観月会

中秋の名月をめぐる恒例行事「八日市町並観月会」。午後6時頃、八日市・護国地区の伝統的建造物群保存地区の家々の軒先に並んだ行灯に、地域の皆さんが火をともし始めました。日が暮れるとともに行灯の明かりが浮かび上がり、辺りが幻想的な雰囲気になっていきます。

今回は巻頭フォトリポートで、4年ぶりの開催となった観月会の様子を写真で伝えます。



本芳我家住宅周辺にも数多くの行灯が並んだ

1_手漉き和紙の作品展にて 2,3_月見団子やラムネは子どもにも大人気 4_ライトアップされた上芳我邸 5_地域の皆さんが一つ一つ行灯に火をともしていく 6_上芳我邸庭園で披露された阿部一成さん、直野朱美さんによる篠笛と鍵盤の演奏 7_29日には美しい満月が楽しめた 8_町家での琴の演奏 9,10,11_翠月流の皆さんによる、はぜとり踊りの披露。踊り連が行灯の町並みに花を添えた 12,13_かわいらしい装いで参加した子どもたち 14_色とりどりの行灯 15_優しい光が会場を照らした



—八日市町並観月会—

月明かりと行灯が照らす町並み

「八日市町並観月会」(同実行委員会主催、芳我明彦^{あきひこ}委員長)が9月29・30の両日、町並み保存地区で開かれました。2日間で約5,000人が来場。篠笛や琴の演奏、月見団子の販売などもあり、月明かりと行灯に照らされた風情ある町並みを楽しんでいました。

芳我さんは「非日常の独特の雰囲気をお客さんにも地元の人にも楽しんでもらえてよかった。保存会や商店街の有志など多くの協力が、ありがたかった」と語りました。